

平成28年9月定例市議会

行政報告要旨

総社市

本日、9月定例会市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせをいただき、ご出席くださいまして誠にありがとうございます。

また、7月15日から8月12日までの間、市内7会場(東、西、昭和、山手、清音公民館、池田分館、総合福祉センター)で、ガラス張り公開市長室を開催いたしましたところ、合計890人もの皆様にご参加いただき、貴重なご意見、ご提言をいただきましたので、今後の市政運営に生かしてまいります。

お忙しい中ご参加いただきました議員をはじめ、市民の皆様方に対してお礼申し上げますとともに、平素から総社市政に対しましてご協力をいただいておりますことを心から感謝を申し上げます。

さて、私が、昨秋に市長選挙で当選いたしましたから、もうすぐ1年となります。選挙戦では「全国屈指の福祉先駆都市を創る!」と「グランドデザインを改革する!」を大きな2本柱とし、岡山・倉敷に質で並ぶ新都心を創るんだ!と言い続けてまいりました。

この1年間、これらの政策を柱に総社流の政策に没頭してきたところですが、今議会では、これらの進捗状況について、足元を確かめながら、それに加え、一方では必要な部分には大胆に挑戦していくというスタンスで、議員の皆様方と議論を戦わせてまいりたいと思いますので、今議会も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

1) 全国屈指の福祉先駆都市の実現に向けて

まず、本市の最重要施策であります2本柱の1つ、「全国屈指の福祉先駆都市」実現に向けた取組みについて4点申し上げます。

(待機児童ゼロ・子育て王国)

まず、子育ての部分について、8月22日、市役所西庁舎1階に、「子育て王国」を建国し、子育てに関するワンストップの窓口機能と、相談室に子どもの遊ぶ場や授乳室を併設した場所として「子育てほっとルーム」が誕生しました。

今後、このフロアが、妊娠前から子育て中の親子の相談支援の中核として、子ども連れで来庁しても安心して手続きや

相談ができるような子育てに優しい場所となりますよう取り組んでまいります。

また、待機児童ゼロに向けての取組ですが、幼稚園での預かり保育の拡充や、事業所内保育事業、小規模保育事業など、様々な制度、施策の連動により、現在の待機児童数は19人となっております。

今後の利用者の増加に対応すべく、民間保育所（定員90名）の新設及び、改築（定員30名増）にゴーサインを出しており、来年4月には開園が予定されております。

これにより、平成29年度には待機児童がゼロになる見込みであり、今後ますます子育てがしやすい環境をつくり、働きたい意欲をもつ女性を応援できるよう努めてまいります。

（医療体制整備）

2点目に、「医療体制整備」についてですが、今年度予算において、市内医療機関の救急医療体制の維持向上を目指して、民間の救急病院の施設整備における支援に踏み込んでま

いました。

現在、森下病院の建替え工事が順調に進んでおり、平成29年7月に新施設において診療が開始される予定です。いざというときも市民の生命と安心が脅かされないよう救急医療体制の充実を図り、市内の医療レベルが向上していくことを期待しています。

あわせて、救急から在宅までの医療が市内で受けられるよう、民間による地域完結型の医療体制の整備に対し支援を行ってまいります。

(障がい者支援)

3点目に、「障がい者支援」についてです。

まず、「障がい者千人雇用」が950人となり、いよいよかねてからの目標であった千人の背中にタッチできるところまで近づいてまいりました。

そのような中、去る7月26日に、神奈川県相模原市の障害者福祉施設で非常に痛ましい事件が発生し、総社市においては、絶対にこのような事件を起こさせないとの決意の

もと、市内にある障がい者施設36事業所と、介護サービス施設74事業所の関係者に加え、総社警察署長、地域の防犯関係団体の皆様を招集し、事件6日後の8月1日に緊急の対策会議を開催いたしました。

そして、8月の1ヶ月間を「総社市社会福祉施設等安全確保強化月間」と定め、総社警察署による不審者への対応研修を開催し、関係機関との連携を図ったところであります。

さらに、8月24日の備中県民局管内トップミーティングにおいて、措置入院が解除された際の、県をはじめとした関係機関で情報共有できるシステムの構築・強化について、伊原木知事へ提言しました。

この提言は、精神障がい者に対する偏見をもつことなく、市役所、警察、保健所、病院、そして地域が情報を共有しながら、地域で共存を図っていける体制づくりをしていこうとするものであり、引き続き、障がい者の方々を支援し寄り添っていく決意を新たにいたしました。

次に、発達障害の子どもたちに対する支援について、特別教育支援員の配置や教職員の増員、本市独自の支援制度への

国による財政措置について、全国市長会へ発議し、決議採択を経て、5月に私が、馳 浩（はせ ひろし）前文部科学大臣に直接提言をしてまいりました。今後、国において、財源措置をはじめ事務的レベルでの具体的な議論になっていくものと期待しております。

また、障害のある子どもたちに対して、特別支援教育推進センター、通称「きらり」を整備し、総社北小学校に「情緒障がい通級指導教室」を開室するための準備を進めるなど、段階的に発達支援・相談を行っていますが、さらに就学前から社会参加まで継続的に切れ目のない支援体制の整備を促すために、教育・福祉・医療・労働の分野が連携し、各発達段階に応じた円滑な情報の共有、引継ぎがなされる仕組みづくりを構築し、この総社流の施策が全国のモデル事業となるよう整備してまいります。

今後、発達障がい者に対する支援について、現状を打破し、困難に風穴を開けていく光となるよう、これまで以上に支援を強化し、勇気を持って挑戦してまいりたいと思います。

(高齢者支援)

4点目に、「高齢者支援」についてですが、総社市の生涯現役社会の実現に向けたメニューが、国の一億総活躍のメニューに合致し、8月1日に厚生労働省の委託事業として、全国で初めて採択されましたので、早速、10月9日に高齢者雇用のワンストップ窓口をオープンいたします。

いつまでも働きたいと望む方々のニーズをしっかりと把握し、生涯現役として働く意欲をもつ高齢者の生きがいを実現したり、高齢者のもつ経験や技術を生かし、市内の雇用増に伴う労働力の確保に結びつけたりできるような、総社市流の生涯現役総活躍社会のモデルを構築してまいりたいと考えています。

そして、今後、一番の要となってくる事業は、国や県の支援メニューに合致しないが、本当は困っている、制度のはざままで暮らしにくさを感じている障がい者や高齢者等の方々を把握し、データベース化することであり、この台帳整備を進めてまいりたいと思います。

この台帳の線引きについては、非常にデリケートな問題

ですが、これを慎重に議論しつつ、その支援内容を具体的につくっていくという作業に入り、できる限り、スピード感をもち、市内の全域において取り組んでまいりたいと考えております。

以上が全国屈指福祉先駆都市の実現に向けた取組みの進捗状況ですが、私個人の所見としましては、1年足らずでここまで実現できたことはかなりの進捗をみているのではないかと考えております。

2) グランドデザイン改革について

(県大周辺整備)

続きまして、グランドデザイン改革であります。

今後、県立大学の学生や職員、流通団地での従事者等、1日に約4,000人以上の活動が予測される、県立大学や岡山総社インターチェンジ周辺を東の玄関口と捉え、新しい学園都市を含む新都心を作ると申し上げておりましたが、いよいよこれから、LRTの検討も視野に入れながら、岡山県立大学の周辺の土地活用のあり方を変えていく議論を

事務ベースでスタートしてまいります。

先日、伊原木知事と面会し、県立大学前の学園都市形成の想いを共有し、いよいよこの議論を県との間で実際に進めてまいります。これが将来的に認められれば、県立大学の周辺のエリアについて、新しい学園都市づくりに着手していきたいと思っております。

さらに、日本郵便株式会社及び日本郵便輸送株式会社が来春に操業を開始し、多くの雇用が予定されていることから、こうした誘致企業で働く方々が定住していく受け皿となる住環境を整備していくというメッセージを送ることは、これからも更に人口を増やし、雇用を増やしていく上での大きな要因になろうかと思っております。学園都市づくりにあたっては、充実した住居空間や商業店舗も含めた快適で夢のある絵を描き、岡山県などと相談するとともに議論を深めてまいりたいと考えております。

また、L R Tの議論であります。8月4日に地元選出の国会議員の先生方（逢沢先生、加藤先生、橋本先生、石井先生）と、私と大森岡山市長とで、L R T化についてのミー

ティングを開催しました。国会の先生方も大いに応援してくださるとのお言葉をいただくとともに、同席いただいた国土交通省の街路交通施設課をはじめとした担当課の方々とも、今後、前向きな話で進んでいけるものと思っております。

また、本議会において、吉備線沿線の公共交通ネットワーク形成計画案の策定経費を補正予算に計上させていただいております。吉備線LRT化の検討について計画案を練り上げ、議会に報告を行い、総社市の方向性を一本化させて岡山市、JRと話し合い、緊張感ある議論をやっていきたいと思っております。

グランドデザイン改革においては、国や県との連携を図り、県立大学周辺の土地活用の変革についてアグレッシブに進んでいくとともに、新総社大橋の開通による東西地域との連動や地域拠点、周辺地域の均衡ある発展について、皆様と議論し、具体策を戦略的に練り上げてまいりたいと考えております。

3) ふるさと納税について

個人版ふるさと納税についてであります。本日までの総納税額は 4億373万円となっております。
(403,729,684 円)

また、新規品目の納税額は 1億8,704万円となっており、このうち企業の売上額は 1億781万円となっています。
(187,039,684 円)
(107,806,960 円)

今後とも、常に新たな品目等をラインナップに加え、ふるさと納税利用者に喜んでいただきながら、財源確保を図ることはもちろんのこと、地元事業者の育成や、地元産業の活性化にも貢献してまいりたいと考えております。

また、主力の返礼品であります総社産の新米についても、現在のところ 2億1,669万円、 14,275俵分の納税をいただいております。大変好評であることから、8月31日を募集締め切りとさせていただいておりますが、通年募集に変更します。

今後も、市内の水稲農家から1俵当たり13,000円(1反当たり4俵)でそうじゃ地・食べ公社が米を買い取り、引き続き、農家支援を行ってまいりたいと思います。

なお、このふるさと納税で得られた純粋な利益の部分につ

いての使い道ですが、財政状況のバランスを図りながら、基本的には市民のために使っていきたい。例えば、ふるさと納税で得た寄附の黒字額の内、ふるさとなんでも応援団に指定されたもの（平成27年度 61%）をもとに、全国屈指福祉施策など単市事業の新規・拡充メニューの財源として、基金の新設も含めて、ふるさと納税の納税者の意思に添う、ターゲットを定めた利用方法を検討していきたいと考えております。

また、今年度から新設されました地方創生応援税制、いわゆる企業版ふるさと納税についてであります。去る8月2日に全国で102事業が内閣総理大臣からの認定を受けました。このうち、総社市が申請しておりました4つの事業すべてが認定を受けることができました。

これは「全国屈指の福祉文化先駆都市」の実現を目指し、行っている総社市流の施策が認められた証であると自負しております。

今後、総社市流の取組に参画いただける企業へのトップセールスやPR活動を積極的に行い、寄附を募ってまいりたい

と考えております。

(市民へのお知らせ・お願い)

続きまして、4点、市民の皆様へのお知らせとお願いをさせていただきますたいと思います。

(1) ゆるキャラグランプリについて

まず、1点目といたしまして、子育て王国そうじゃPRキャラクターであるチュッピーのゆるキャラグランプリ参戦についてでございますが、現在のところ全国1,418体のゆるキャラたちの中で、第 1 位につけております。

これは、チュッピーが、7月27日に文部科学省の前川事務次官を訪問したり、8月21日に天満屋岡山店で1日店長を勤めたり、数々のテレビ出演を行うなど、総社市内にとどまらず、全国規模でPR活動を行っている成果であると思えます。

さらにこの機運を継続していくために、協定を締結している方々と、9月7日に総社市において総決起集会を行い、全国ゆるキャラたちの頂点となるよう、取り組んでまいります。

10月24日までの投票期間中,引き続き皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

(2) 教育特区について

続きまして2点目,今年度から2地区が加わってスタートした教育特区ですが,学区外から,池田小学校区では7名,新本小学校区では1名の転入園生を新たに迎え,全教育特区では累計総数81名を数えるまでとなっております。

新本小学校では,9月24日に行われる運動会で,連携協定を締結しているくらしき作陽大学が,マーチングで盛り上げます。また,11月19日の昭和小学校での学習発表会,翌20日の維新小学校でのふれあい学芸会では,英語劇が予定されるなど,特区が学校生活に浸透してきております。

10月20日の池田小学校をはじめ,各教育特区で,オープンスクール,オープンキンダーガーデンを随時開催しておりますので,広く皆様方のご参加をお待ちしております。

私自身,9月1日に維新小学校での英語の授業を視察するなど,各学校の現場を見ておりますが,それぞれの特色を生

かした取り組みを行っており、今後も様々なカリキュラムにおいて、子どもたちが幼少期から本物に肌で触れ、体感することができる教育をさらに拡充してまいりたいと考えています。

(3) 赤米フェスタ2016について

続きまして3点目ですが、9月17日の土曜日と18日の日曜日の2日間、備中国分寺南側広場におきまして、赤米フェスタ2016が開催され、「赤い稲穂の夕べ」と題し、赤米のライトアップを行います。

また、17日土曜日の18時から、赤米大使の相川七瀬さんをはじめ、歌手の加藤登紀子さん、岡本真夜（まよ）さんによるヒカリノミ・コンサートも行われます。秋の夕べ、吉備路の幻想的な風景をお楽しみいただける素晴らしい機会となりますので、皆様お誘い合せのうえお越しくください。

(4) 熊本県益城町テント村プロジェクト活動報告会

最後、4点目ですが、赤米フェスティバルの翌日、19日に、環境観光大使の野口健さんが来総され、総社市民会館において、「熊本県益城町テント村プロジェクト活動報告会」が開催されます。

熊本地震被災者支援について、最前線で生命の危機に寄り添い、テント村での避難所運営を行った生の声など貴重な体験談は、今後起こりうる災害に備える有効な道しるべになると思いますので、こちらにもぜひご参加いただきますようお願いいたします。

(6月議会での検討事項について)

さて、先の6月議会での検討事項としたものにつきまして、その結果をこの本会議場でご報告させていただきます。

岡崎議員からいただきました2つの質問についてですが、まずは、消防署、出張所から遠距離にあるコンビニエンスストアへのAEDの設置とAEDマップの作成についてですが、AEDの設置について、オーナーの方に依頼をしご承諾

をいただいた店舗からAEDの設置を進めてまいりたいと思います。そして、AED設置後、市内のAEDマップの作成に着手してまいります。

2つ目は、骨髄バンクドナーが従事する事業所への補助について、ドナーに加えて事業所へもドナーが休業する日数に応じて助成金を交付できるよう要綱を改正し、平成29年度予算要求を行う予定といたしております。

以上、私の再任後、1年間における、全国屈指の福祉先駆都市実現に向けた取組みや、グランドデザイン改革の進捗等をご報告させていただきましたが、これら双方にさらに現実的かつ具体的な議論を重ね、総社市が大きく変革し、大いに伸びていくことができるよう、勇気をもって決断し、人口が増え、雇用が増え、子どもの出生数が増え、税収が増えるという正なるスパイラルを確立してまいりたいと思いますので、議員の皆様におかれましても、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、私からの行政報告とさせていただきます。